

白色点付近に集まっており、その分布は主波長 560 m $\mu$  と 465 m $\mu$  方向にやや拡がっている。後者は主として蛍光増白したものに属している。蛍光増白剤の濃度を高めると白さは増して見えるが、一定の限度があって、それを越えると却って減少する。

## ②B-47 被服地の白さについて

椋山女学園大 ○加藤 雪枝  
椋山 藤子

1. 近年測色学が発達したので、有彩色の決定には、それぞれ適当な方法が使用されているが、無彩色特に白さの決定は確立されていない。感覚的に白と見られる面は真の白色を中心としたある範囲が仮定される。また最近蛍光増白剤が用いられるので、蛍光の加わった場合の白さも問題になる。そこで種々の角度より光学測定を行ない、肉眼観測との関連法をしらべ、白さの評価を検討する。

2. 試料には紙10種、市販されている白布20種、蛍光増白剤の濃度を加えて増白した布20種を用いた。実験には分光光度計と蛍光分光光度計 FC-2 型とを用いて、分光反射率曲線より C I E および R U C S 系色度座標を求めるとともに、被験者50名による肉眼観測を行なった。

3. 肉眼観測で白いと判定された試料は、分光反射率曲線が、可視領域全体にわたってきわめて高く、曲線はほぼ水平である。蛍光増白したものは反射光のほかに蛍光が加わるため 430m $\mu$  付近に最高値を示し、400m $\mu$  以下に強い吸収が現われる。白さ順位の高い試料は色度図の